



おおや



2月号 R8.1.30

発行責任者

校長 田崎 守

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷 528 電話 048(781)0120

「見て、触れて、繋がって学ぶおおやビオトープ」の展開

校長 田崎 守

ビオトープの池やプールの表面に氷が張るほどに寒く冷え込む日と日中は汗ばむほど温かい日があり、季節が徐々に移り変わっていることを感じることがあります。2月3日は節分、4日は立春となり、春の足音が聞こえています。

さて、本校の校長室には、「野鳥愛護校」に指定されているという額が飾られています。平成5年に授与されたもので、現在は住宅街に囲まれた学校ではありますが、確かに本校の樹木や池には、今でも多くの野鳥が集まっている様子を見ることができます。そのような状況から、現在の環境を様々な視点から見直し、工夫することで新たな視点からの教育の展開が期待できるのではないかと考え、昨年の学校だより2月号では、おおやビオトープ計画について記事を掲載いたしました。

あれから、約1年が経過し、本校ではあまり活用されていない岩石園にある池だったところをビオトープに変貌させ、そのビオトープを核にした学習環境として、これまで学校として整備してきました。整備にあたっては、児童環境園芸員会、用務員、埼玉県環境アドバイザー等が関わり維持・管理をしながら、環境教育の本校の特色として教育活動を展開し、児童が集まり、学びの空間に変わってきています。

このビオトープに関わる取組では、日本生態系協会、環境保全に取り組む民間企業の担当者を講師に招聘して授業を行ったり、校内には学びに結び付く各種コーナーを設置したりしています。例えば、3年総合の学習でビオトープに生息する生き物を調べる際、図書室や理科室前の関連コーナーの本で調べたり、本校オリジナルのオンライン図鑑で検索したり、地域の方が執筆してくれた生きものだよりで知識を得たりすることができるようになっていきます。子供たちの学びが、連鎖してつながっていくことで深まるように工夫しております。

そして、この度、本校は本取組を「全国学校・園庭ビオトープコンクール2025」において応募し、「優秀賞」を頂くことができました。これも、児童の地道な環境保全につながる活動、関係団体の皆様のご協力あっての受賞であると考えております。2月8日には、本コンクールの発表大会にて実践をポスター発表してまいります。

これからも、本活動を含め、子供たちが生き生きと学び、教育活動が更に充実していくように、創意工夫をしながら取り組んでまいります。

